はじめに

甲南大学に入学するまでの私の生活の中で、私と東灘区とは、行ったことないし、知り合いが住んでいるというのもないので、全く接点はなかった。だから、私の、東灘区のイメージというのは、小学校6年生のときに持った、‘もうすぐ私が住むことになる高砂の近くで地震の被害が大きかった所’のままだ。私は震災が起こった 2 ヶ月後に父親の仕事の都合で、兵庫県へ行くことが決まっていた。兵庫県民になってからもう 6 年も経つのにイメージが変わっていないなんて・・・。今回はちょうどいい機会だと思って、新たな東灘区のイメージを他の人の目線を通さず、自分で作るために、地図とカメラを持って東灘区へと出かけた。

一体これは…！？

まず、JR 住吉駅を降りた私は、大きな通りを歩いた。しばらくすると私の目に飛び込んできたのは、この小さな看板だった。この種類の看板は良く見かけるが、他の看板には何と書いてあったか？切手と蜂蜜？蜂蜜と切手？一瞬私の頭は混乱したが、すぐに頭の中は爆笑状態になった。普通は、○○商店とか少し古風な店名が書いてあるのだと思うがこの場合、‘はちみつ’が店の名前なのだと納得しようとした。が、その瞬間、私の目にさらに理解不能なものが飛び込んできた。それは、巨大なスズメバチの巣と、その下には‘神戸ハチミツ園’の文字。どうやら、この店の本当の名前のようだ。看板の下にも、入り口にも、‘はちみつ’とかいてあるが、強烈なインパクトを持つスズメバチの巣の下でひっそりと‘神戸ハチミツ園’と静かながら正式な店名をアピールしているのだとようやく理解したのだった。それにしても、おかしな店だ。店の中は蜂蜜だけ。それもかなりの種類と大きさのびんが所狭しと並べられている。あるのは、蜂蜜のびんと巨大なスズメバチの巣だけで、こんな状態の中、蜂蜜に囲まれる覚悟で‘50 円切手下さい。’とだけ言うのはかなり勇気がいるように思われる。もしかしたら、ミツバチの絵柄の切手を買うことが出来るかもしれない！？だが、この店の様子からいうと、店主の蜂蜜の知識

6/10　JR 住吉駅付近で発見

は相当なものだと思われるので、誰かが蜂蜜の専門店を探していたら、間違いなくこの店をおすすめしようと決めた。

がっかり名所発見！

次に、私は灘といえば‘酒’だろうと思い、地図をを頼りに酒蔵や、資料館が多い‘灘五郷’と呼ばれる方面へと向かった。その途中で私は、気になる交差点を発見した。その交差点の標識には、‘処女塚’とあった。私は、読み方に戸惑ったが、近くに歴史にちなんだ塚でもあって、きっとその塚には何か言い伝えでもあるだろうと思い付近を捜すとすぐに発見したのだが、正直にいえば、期待はずれの場所だった。私は、もっと大きなものを期待していたのだ。そこには、古墳跡があったのだが、その古墳は保存しようという動きが出たときす既に角を削られていたりと、あまり良い状態ではなかったらしい。そして、私が見たのは、すっかり舗装され、コンクリートの階段が付いていて、古墳の上は、桜の木とベンチがあり、お花見にぴったりの小さな前方後円墳だった。でも、その古墳には、少しロマンチックないわれがある。ちなみに、その古墳は、‘おとめづか‘というのだ。

6/10　処女塚古墳（今考えると読み方がわからなかったのはかなり恥ずかしい。）

昔々、ある一人の女を、二人の男が愛してしまい、女は苦悩の末自ら命を絶ち、男たちもその後を追って命を絶ったという、伊勢物語でも聞いたことがあるような悲恋の話が残っていた。そしてそこには、小山田高家の碑と、田辺福麻呂の歌碑というのもあって、地味ながらも歴史を感じさせる場所だった。そのまわりには大きな道路や、線路もあって、なかなか都会っぽくて、新しい人工物しかなさそうな場所だったので、ひっそりとではあるが、歴史的なものが残されていることがなんだかとてもうれしかった。

酒の歴史と甲南漬けを知る

次に、灘の酒の歴史でもみてみようと思って、‘こうべ甲南武庫の郷’という資料館へ向かった。そこで私は、酒の資料をみる前になんと‘甲南漬け’なるものを発見したのだ。

今までそのようなものがあることを全く知らなかったので、私は、甲南漬けが入っているおいなりさんを食べてみることにした。上品なお膳に具だくさんのおいなりさんが運ばれてきた。私は、甲南漬けの部分だけを取り出して、口に運んだその瞬間、私の顔はもう言い表しようがないくらいに歪んだ！私は、奈良漬けみたいなものが食べられないのだったが、甲南漬けはその上をいっていたように思う。苦痛に満ちた私と、まだ手を付けられていないおいなりさんはしばらくの間見つめ合ってから私は恐る恐るおいなりさんを口に運んだ。すると、あの小さな甲南漬けのつぶだけだと食べられなかったのに、ご飯と混ぜるとびっくりするくらいにおいしかったのだ。私は、最初から普通においなりさんを食べていれば甲南漬けのイメージは良いままだったのに…。私は自分の‘ボタンがあったらとりあえず押してみる’性格をうらみつつ後資料館を回った。資料館には、全然日本酒には詳しくない私でも知っている酒の銘柄がたくさんあって驚いた。しかも、その歴史は江戸時代中期からずっと続いているのだ。そこまで歴史が古いなんて驚きだ。歴史の古さに驚いていると、私の好奇心をくすぐる古い物を見つけた。それがこの写真なのだが、どうやらこれは昔のレジのようだ。私は、バイトでレジを打っているので、何だか不思議な気がした。昔はこのレジで、酒を売っている人がいたんだろうな。今、私がこのレジを見たら古さに驚くけど、当時このレジが初めて店にきたときには、みんなで便利さに驚いたのだろうなといろいろなことを思った。

6/10　こうべ甲南武庫の郷の資料館の片隅で・・・。

変わった建物がたくさんあった六甲アイランド

歴史の古さを感じたので、次は、新しさを探しに六甲ライナーに乗って、六甲アイランドへと向かった。六甲アイランドではその日、フリーマーケットをやっていて、たくさんの人でにぎわっていた。その近くの公園では、小さな子供たちが水遊びをして遊んでいた。その水遊びのスタイルは、一人一人全然違うので、見ていておもしろかった。水着を用意している子もいれば、来ていた服そのままの子、（きっと自分も入るとだだをこねたんだろうな。）ズボンだけの子の中でなぜか、パンパースだけの子がいた。あれは、水分を含むと

膨張して重くなるのでは！？とかなり心配したが、その子に話し掛けるわけのもいかないので気になりつつも目線を建物に移した。そこにある建物はどれも新しく、都会の雰囲気が漂っていた。新しいどころか、未来の世界を感じさせる建物まであった。こんな建物は私の家の近くにはない！中から宇宙人がでてきそうだと、太陽の暑さにくらくらしながら思っていた。私は、暑さに耐えかねて、六甲ライナーへと向かい今回の探索を終わることにした。

6/10　六甲アイランドの神戸ファッション美術館

終わりに

このように、初めての東灘区探索だったが、この写真以外にもいろいろな発見があった。それらをまとめて感想をいえば、やはり不思議な街である。新しいものと古いものが共存している感じだが、同じ印象を持っていた京都とは全然違う。新しいものの近くには海があるからだろうか。これから私は確実に４年間は東灘区で多くの時間を過ごす。京都の人はあまりにも近くにありすぎるために、観光名所にはいかないらしい。でも、私も、普通に過ごせば同じなので、いつも旅人の視点を持っているようにしたい。せっかく４年間を過ごすことになった街だ。これからもっといろいろなことを発見して、もっともっとこの街を好きになっていきたい。